

大槻人の行ふ不賢愚とむに不存あり。まづ心ふ歎まる事
へ。他人の練やも宿ざるゝのあり。秀吉邊然小酒與に耽り。放逸
れ身とあらうも。而存りての緯あらんか。何ぞこゑ我蘇争せ
んや。君の不興我象まく。藝居と嬖便書あれ。酒盃を傾ふて
と。恩材あふくの稱をぬき。従令秀吉従長の総慮せ怒を奉た
ればと。そき我恨む秀吉あらむ。増てや天魔也障礙あく。より
緯あくあづくも。狹ひ徳小勝也といつて。羽柴の至徳も運球。かじ
て狹魔の祀玉ぐ。原束慎も源く酒代好み人されば。志の素
うすもす。然らば誰が蘇むと。害ひらゝ族ひあらじ。足下候
心哉勞せども。辭坐とあづれ相同小。隣宴せよき遊樂ゆれよ。
戦國小候候ちるのひ。河殿生んも量りがく。遊樂もよき時ノ
あづべ。千歳と補ふ樂誤ちるも。是亦大丈丈也不行ふきがれの障
ろとを絶うゆく。と烹きを絶ゆく。漁野候も漸く主人の心誠悟す。
然こそあらうと安達しく。令正にす是を告まゆを。偕ふんと寛じ
たり。向ふ大坂を預守せ。獻守する。天王寺副寨のち將松永孫正之
秀。倉率に謀反。大坂境伐引退き。本城ゆりける大和の國志貴
山小對敵守。内府へ歌對れ色を顯むと。駆るとりく。途中伐。天王寺
の立番領領。佐久間右馬門尉信盛。筒井順景も候よと。頻小安ち
注伸みし。征伐延引はまづく。諱じしき大車小いと。听へや
れぞ。愕然とひ。領て近末本預寺伐。征伐も爲むかがへじ。専
ありとひよとり。軍勢不足あらざれども。然はれく。財を闇
ひ。松永謀叛を改念せること。容易あらず。次第ある。まずて而暫